

第 26 回基準諮問会議

2016 年 3 月 4 日、財務会計基準機構（FASF）において第 26 回基準諮問会議（議長 野崎邦夫 住友化学(株)代表取締役 専務執行役員）を開催し、審議が行われました。詳細な内容については、財務会計基準機構ホームページ（https://www.asb.or.jp/asb/asb_j/standards_advisory/）にて「議事概要」を公開していますのでご覧ください。

（審議事項）

1. テーマ提言について

今回の基準諮問会議において、次の①から③の 3 つのテーマが新たに提案された。

- ① リース取引に関する会計基準（企業会計基準第 13 号）等の見直し検討
- ② 「経営者が会計方針を適用する過程で行った判断」及び「見積りの不確実性の発生要因」に関する注記情報の充実
- ③ 子会社、関連会社株式の減損とのれんの減損の関係

①については、中期運営方針の検討に含めることを企業会計基準委員会（ASBJ）に依頼すること、②については、事務局で提案の内容を検討の上、次回の基準諮問会議において検討を行うこと、また、③については、実務対応専門委員会に新規テーマの評価を依頼することとなった。

2. ASBJ の最近の活動状況について

小野 ASBJ 委員長及び小賀坂 ASBJ 副委員長より、ASBJ の最近の活動状況についての報告が行われた。当該報告において、以下の内容の説明がなされた。

- (1) 前回の基準諮問会議からの提案を踏まえ、会計基準の開発に関する予見可能性を高めるため、ASBJ で開発中の日本基準、修正国際基準の検討状況及び今後の計画をまとめた「現在開発中の会計基準に関する今後の計画」を公表することを予定している旨。また、今後、ASBJ の中期運営方針を公表することを予定しており、当該運営方針に今後の日本基準の開発に関する基本方針も記載する予定である旨。
- (2) マイナス金利及び平成 28 年度税制改正に対応した減価償却に関して、今後、緊急的に対応を検討する可能性がある旨。

その後、基準諮問会議の委員より意見が出された。

これらを踏まえ、野崎議長より、基準諮問会議として、マイナス金利及び平成 28 年度税制改正に対応した減価償却について、必要に応じて、ASBJ で検討いただきたい旨の発言がなされた。